

H30年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 (ドリームケアふいる とくら園) 作成日時 (平成 30年 9月 21日)

代表	施設長	本部
風間	矢崎	田中

H29年度 改善への取り組み	・職員研修の充実(個を見る力をつける、アセスメント力を高める)
今年度の施設目標	・感染症マニュアルの作成 ・担当者会議の充実

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点	分析検討してみたの事業所の強み	分析検討してみたの事業所の改善点
環境・体制整備	<ul style="list-style-type: none"> 教室の広さが子どもと職員が入ると狭さを感じる。 職員配置数に余裕があるとよい 排泄時間帯のトイレに混雑を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者は職員の専門性が適切であると評価しているが、職員間に専門性のばらつきがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な支援が提供できるような取り組みがあり、振り返ることができている。 法人内部研修や法人内の児童発達支援部会での研修に定期的に取り組んでいる。 水野敦之先生に置けるコンサルテーションの導入。 関係機関との連携、情報共有ができています。 協力的な保護者が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の構造化。 職員研修、人材育成の場に参加できる職員が少ないため、職員育成プログラムを計画し、全職員が研修に参加できるように、同じテーマで複数回研修を開催する。 地域に児童発達支援事業所の取り組みを周知できていない。 家族支援を保護者に周知し、内容の充実を図る。 地域の幼稚園、保育園との交流機会。 災害発生、防犯、感染症マニュアル等を保護者、職員に周知できていない。
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初、施設目標とその目標達成のための方法を設定し、振り返りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイドライン職員アンケートも回答数が全職員の半数程度であり、業務改善に対する意識の低さがある。 		
適切な支援の提供	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントを行ったうえで、児童発達支援計画を作成している。 支援計画に沿った支援に取り組んでいる。 プログラム活動は担当者複数で作成し、集団活動と個別活動を組み合わせている。 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントを行っているが、まだまだアセスメント力を高める必要がある。職員研修、担当者会議を活用し、「芽生えていること」に気づける支援者を育成していく。 		
関係機関や保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの住居のある市町の保健センターや福祉課等と連携し、情報共有している。 就学先と情報連絡会を行っている。 児童発達支援から幼稚園・保育園に移行していくときに、情報共有し連携をしている。 自立支援協議会の子育て部会に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園、保育園と併行通園している家庭は、地域の子どもたちとの交流機会があるが、児童発達支援のみの利用児に向け、利用している子どもの地域の幼稚園、保育園の園庭開放や行事等を把握し、保護者に周知していくことが必要。 		
保護者への説明責任等	<ul style="list-style-type: none"> 初回利用の前に保護者に運営規定、重要事項説明書の内容を説明している。 児童発達支援計画作成、評価の際に保護者と面談を行い、保護者の同意を得ている。 月に一度、園だよりを発行している。 ブログ更新が滞っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営規定、重要事項説明書でサービス提供時間を説明しているが、説明が足りていない。 支援計画に関する面談(年3回)のほかにも、希望面談や相談があった時には対応しているが、保護者の満足する内容、回数ではない。 2か月に1度、参観会、懇談会を行っているが、保護者の満足する内容、回数ではない。 		
非常時等の対応	<ul style="list-style-type: none"> 非常時等の対応が保護者に周知されていない。 てんかん発作の子どもの状況を把握している。 子どもの予防接種の状況を把握していない。 予測されるヒヤリハット集を作成し、職員で共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災用品が備えてあるが、保護者に周知されていない。 ブログに子どもの写真を掲載する際、個人が特定されないよう配慮したつもりだったが、配慮が足りていない。 	<p>事業所の改善への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設内の構造化⇒アセスメントに沿った視覚支援、物理的構造化に取り組み、よりわかりやすい環境を作る。 職員研修、人材育成の場に参加できるスタッフが増えるようなシステムづくり。 地域支援⇒自立支援協議会の子育て部会に参加し、地域全体の支援力が高まるよう、関係機関と連携していく。 家族支援⇒園便りに「随時希望面談を受け付けます」「電話相談受け付けます」を記載し、気軽に相談できることを周知する。また、ペアレントトレーニング等の研修機会を把握し、周知する。 緊急時、非常事態の対応マニュアル、備蓄品、防災用品、訓練内容等を保護者、職員に周知する。 <p>自己評価を行っての事業所としての感想など</p> <ul style="list-style-type: none"> 面談を行っていたり、参観会で保護者の懇談会を設けたりしていたが、取り組んでいただけで、保護者の満足する取り組みには至っていなかったことがわかった。保護者からの意見で自分たちの取り組みの甘さに気づかされるが多かった反面、ねぎらいの言葉を表現してくださる方もいて、改善するところは改善し、よい取り組みは継続していこうと気が引き締まった。 職員間で統一した支援ができているとは言い難く、また業務に対する意識も統一できていないとは言い難いことがわかった。特定の職員ができる支援ではなく、事業所全体で統一した支援ができるようにしていく必要があると感じた。 	

来年度の施設目標	・衛生管理・安全対策の徹底。 ・事業所全体で統一した支援に取り組む ・保護者との連携を深める。
----------	---